※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【基本目標】

人間尊重の教育を基盤に，豊かな心と健やかな体を持ち，自らの課題を意欲をもって創造的に解決することができる，たくましく生きる力をもった児童の育成を目指す。

【具体目標】（目指す児童像）

健康で根気強い子 進んで学び よく考える子 心豊かで 思いやりのある子

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

全職員が相互信頼と協働性を基盤に学校経営に参画し，目指す児童像に対応した教育活動の実践に努める。この教育活動を展開するために，次の「目指す学校像」，「目指す教職員像」を設定し学校経営を推進する。

【目指す学校像】

- (1) 明るく 活力のある学校
  - ・分かる授業が展開され，一人一人が生き生きと活動している学校
- (2) 温かく 居がいのある学校
  - ・認め合い，励まし合って，一人一人のよさや個性が発揮できる学校
- (3) 地域に開かれ 信頼される学校
  - ・保護者や地域との連携を強化し，協力し合って児童を育成する学校

【目指す教職員像】

- (1) 前向きで 熱意がある教職員
  - ・自らの使命を自覚し，意欲的に職務に励む教職員
- (2) 愛情をもって 子どもと向き合う教職員
  - ・教育的愛情をもち，一人一人のよさや個性を大切にしている教職員
- (3) 自己研鑽に努め 協働を大切にしている教職員
  - ・自ら進んで研修に励み，協力し合って職務を遂行する教職員

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 人間尊重の精神を基盤とし，児童一人一人のもつ「持ち味」や「よさ」等を見取るとともに，児童とのふれ合いを通して，さらに認め伸ばし，豊かな心の育成に努める。
- (2) 一人一人の児童を多くの教職員で様々な視点から見取りながら，義務教育9年間を見通し，基礎・基本の定着を図るとともに，「分かる，楽しい授業」を展開し，新学習指導要領を踏まえた確かな学力の向上に努める。
- (3) 自他の生命を尊重し，児童・教職員一人一人が生き生きと前向きに安心して生活できる健康で安全な学校づくりの推進に努める。
- (4) 教育公務員としての自覚をもち，サービスを厳守するとともに，進んで自己研鑽に励み，自らの資質を高め，さらに，協働の精神を大切に，教職員・児童へ還元できるように努める。
- (5) 家庭・地域社会と連携を密にし，信頼と協力を基盤とする「開かれた学校づくり」に努める。
- (6) 小中一貫教育の推進を図るとともに，「石井小学校地域協議会」と連携し，児童の学習支援や安全確保，健全育成等，地域の教育力を生かした学校づくりに努める。

【陽東地域学校園教育ビジョン】

地域の教育力を生かし，地域とのかかわりを通して，心豊かでたくましく生きる子どもの育成

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】 「地域協議会」との連携のもと，地域の教育力を活用した地域と共に歩む学校づくりの推進
 (1) 体力と気力増進 (2) 確かな学力の定着 (3) 豊かな心の育成 (4) 地域と共に歩む学校づくり
 ○ (5) 地域学校園活動の推進 (6) 教職員の資質の向上 (7) 危機管理・環境整備の充実

【学 習 指 導】 「豊かなかかわりの中で，生き生きと活動する児童の育成」
 ～地域の教育資源を生かし，学び合いにおける支援の工夫を図った授業づくり～
 ○ (1) 基礎・基本の確実な定着 (2) 学習指導の工夫・改善 (3) 読書活動の充実
 (4) 家庭・地域との連携・協力

【児 童 生 徒 指 導】 「発達段階と個人差を踏まえた基本的生活習慣の確立を目指す児童の育成」
 ○ (1) 基本的生活習慣の育成 (2) 規範意識や人権感覚・意識の醸成 (3) 望ましい集団づくり
 (4) 個に応じた指導の充実 (5) 家庭・地域・関係機関などとの連携

【健康(保健安全・食育)・体力】 「自己の健康・体力についての理解を深め，その向上に努める児童の育成」
 ～保健指導や学級活動との関連をふまえた教科体育の工夫～
 ○ (1) 望ましい食習慣の育成 (2) 健康・体力の向上 (3) 家庭・地域との連携協力

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 日常の指導において、児童が自主性や主体性を発揮できる場の確保に努める。 (1) 体験活動を重視した学習活動の積極的な展開 (2) 学級活動の充実による、明るく、活力のある学級風土づくりの推進 2 児童会活動や学校行事の工夫・改善を通して、児童の主体的な活動の場を確保し、楽しく、活気あふれる学校づくりを目指す。 (1) 縦割り班活動の充実 (2) 学校行事や児童会運営への児童の参加促進	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>96.1</td> <td>100.0</td> <td>92.7</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 90%以上であり、十分満足できる結果となった。 学年・学級経営計画に基づく組織的な取組や、評価サイクルを機能させた児童会活動や学校行事の工夫・改善により、体験活動を重視した、児童の自主性や主体性が十分に発揮できる活動の場が確保され、楽しく、活気あふれる学校づくりが推進されたと考えられる。 【次年度の方針】 児童会活動や学校行事の工夫・改善を一層推進する。その際、行事の意義を十分吟味し、児童にとって価値のある体験活動を充実させるようにする。また、縦割り班活動や児童会主催行事の一層の充実を図り、楽しく、活気あふれる学校づくりを更に推進できるよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	96.1	100.0	92.7
	教職員	保護者	地域住民	児童								
	100.0	96.1	100.0	92.7								
A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに、組織を活用した指導の充実を図る。 (1) 教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進 2 日々の学習指導の工夫・改善に努め、「分かる、できる」楽しい授業づくりを目指す。 (1) 授業のねらいの明確化 (2) 指導形態や指導方法の工夫 (3) 個に応じた支援の工夫	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>94.4</td> <td>100.0</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 95%以上であり、十分満足できる結果となった。 「分かる授業が展開され、一人一人が生き生きと活動している学校」という学校像の具現化を目指し、教職員一人一人が学校経営ビジョンをしっかりと理解し、自己設定した行動指針に基づき、一丸となって学習指導及び児童指導に取り組んできた成果が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 今年度の反省を基に、教育相談や保護者との懇談の機会を更に充実させる。また、一人一研究を中核とした自主的な研修や学校課題研修による組織的な研修の機会を通して、日々の学習指導の工夫・改善・充実に努め、「分かる、できる」楽しい授業の推進を一層図るよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	94.4	100.0	98.4	
教職員	保護者	地域住民	児童									
100.0	94.4	100.0	98.4									
A 3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 基本的な生活習慣育成の徹底を図るとともに、規範意識を高める指導の充実を図る。 (1) 「石井っ子の生活」に基づいた組織的な指導の充実 ① 家庭との連携の推進 ② 自己評価の活用法の工夫 (2) 生活当番組織を活用した日常生活指導の充実	A	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.2</td> <td>92.4</td> <td>97.5</td> <td>85.5</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 80%を超え、目標値を達成することができた。 月間目標に基づいた週目標を設定しての全校体制による生活指導や「石井っ子の生活」に基づく意図的・計画的な指導が浸透してきた成果が表れたものと考えられる。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.2	92.4	97.5	85.5	
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.2	92.4	97.5	85.5									

	① 生活目標の周知方法の工夫 ② 朝の会や帰りの会を活用した児童の主体的な活動の推進	【次年度の方針】 「石井っ子の生活」に基づいた計画的な指導を継続・充実させるとともに、学期単位で指導事項の習得状況を児童に自己評価させたり、児童会活動との関連を図ったりして、児童の主体的な活動を推進する。また、家庭との連携を強化するとともに、児童指導委員会を中核とした組織的な児童指導を積極的に展開し、基本的な生活習慣や規範意識を更に育むよう努力する。								
A 4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 学校課題を中心とした全校体制による授業研究をとおして、「分かる・できる授業」づくりを積極的に推進する。 (1) 単位時間及び単元の指導法の工夫・改善 (2) 「一人一研究」実践による指導法の工夫・改善 2 児童一人一人の学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細かな指導を充実させる。 (1) 少人数指導や T.T による指導の工夫・改善 (2) 朝の活動を活用した基礎学力の向上	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1015 528 1506 607"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>85.8</td> <td>97.0</td> <td>98.4</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童が約 95%の肯定的回答であり、昨年度と比較してもポイント増であり、十分満足できる結果となった。 「分かる・できる授業」づくりの積極的な推進、個の実態に応じたきめ細かな指導の充実等が評価されたと考えられる。しかし、昨年同様、保護者と教職員の意識に開きがあることから、より積極的な情報発信を展開する必要があると考えられる。 A 【次年度の方針】 各種行事のスリム化（内容の精選・実施方法の見直し等）を更に進め、教材研究の時間や児童と向き合う時間を確保するよう努力する。また、「一人一研究」の実践方法を改善し、教職員一人一人の授業力の更なる向上を目指す。 保護者への啓発については、ホームページ等を活用し、情報を更に発信するよう努力する。また、指導法の改善（習熟度別指導等）や朝の活動を利用した個に応じた指導の更なる充実を図ることで、児童の学ぶ意欲やできた喜びを更に高めるよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	85.8	97.0	98.4
教職員	保護者	地域住民	児童							
100.0	85.8	97.0	98.4							
A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 道徳の時間を要とした道徳教育を充実させ、人権感覚の醸成を図る。 (1) 「いじめ問題」や「生命尊重」を題材とした道徳授業の実践 (2) 児童主体による「いじめゼロ集会」の実践 (3) 道徳の時間の指導の充実と人権意識の涵養を目指した情報発信の推進 2 全校体制による組織的ないじめ防止策の積極的な推進を図る。 (1) いじめゼロ強調月間の取組の充実 (2) 教育相談並びに児童指導委員会の充実 (3) 年4回のいじめアンケートの実施と結果の効果的な活用	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1015 1373 1506 1451"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>68.9</td> <td>100.0</td> <td>98.2</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童が 95%超の肯定的回答で、昨年度よりもポイント増であり、数値上は目標値を十分に達成することができた。しかし、昨年度同様、保護者と児童及び教職員との数値に大きな開きがあることから、学校の取組が十分に理解されていないと考えられる。 取組を地道に継続するとともに、情報提供の在り方を見直し、保護者との連携・協力を更に推進したい。 A 【次年度の方針】 教育相談並びに児童指導委員会の取組を更に充実させ、全校体制による組織的ないじめ防止策の一層の推進を図る。特に、道徳教育の充実を第一に考え、道徳の授業公開をオープンスクール等の機会に全学級で行う。また、児童主体による「いじめゼロ集会」での取組や人権週間の取組等を工夫・改善し、人権感覚の醸成を更に推進するようにする。また、学年だよりやホームページ等を活用して、積極的に情報を発信するようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	68.9	100.0	98.2
教職員	保護者	地域住民	児童							
100.0	68.9	100.0	98.2							

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 全体アンケート 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 日々の教育実践の記録等を累積し、より適切な教育課程の編成を推進する。 (1) 週案による時数管理の徹底 (2) 各行事反省による評価資料の収集と次年度計画への反映 2 学校評価の結果を検証し、児童や保護者、地域住民等の思いや願いを十分生かした教育課程の編成に努める。 (1) マネジメントサイクルを重視した教育活動の展開 (2) 校内評価委員会を活用した組織的な評価の推進	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1013 145 1508 224"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>98.6</td> <td>100.0</td> <td>91.8</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が 90%以上であり、十分満足できる結果となった。 累積された教育実践の記録等を分析し、さらにゆとりのある充実した学校生活になるよう年間行事配列の適正化に努めるようにする。 【次年度の方針】 A 4 の項で述べたように、各種行事のスリム化（内容の精選・実施方法の見直し等）を更に進め、ゆとりのある充実した学校生活の実現に努めようとする。そのために、各種行事等のねらいを再確認し、より効率的、効果的な指導法を検討するようにする。また、学校評価の方法についても見直しを図り、より実効性の高い評価になるよう努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	98.6	100.0	91.8
教職員	保護者	地域住民	児童							
100.0	98.6	100.0	91.8							
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 学校公開を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。 (1) オープンスクール等による学校公開の推進 (2) 学校行事公開や地域ボランティアとの連携による教育情報の積極的な発信 2 各種便り等を活用し、家庭や地域への、教育情報の積極的な発信を推進する。 (1) 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行 (2) ホームページの定期的な更新による情報発信	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1013 761 1508 840"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>97.0</td> <td>97.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は保護者の肯定的回答が 95%超であり、昨年度に引き続き、高い評価を得ることができた。 年間 2 回の土曜授業及びオープンスクール、学校行事の積極的な公開、ホームページや各種便り等による情報発信が評価されたと考えられる。 【次年度の方針】 学校公開については今年度の取組を踏まえ、更に充実させるようにする。特に、土曜授業については家庭・地域との連携及び交流を一層推進できるよう工夫するようにする。 情報発信については、各種便り等の活用を更に推進するとともに、ホームページもより積極的に活用できるよう、公開に関する校内規定を見直し、計画的に情報が発信できるようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	97.0	97.6	
教職員	保護者	地域住民	児童							
100.0	97.0	97.6								
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 地域の教育力を積極的に活用し、地域に根差した特色ある教育活動を推進する。 (1) 学校支援ボランティアの積極的な活用 (2) 地域連携教員を中心とした組織的な取組の推進 (3) 地域学習素材や人材の活用 2 石井小学校地域協議会と連携を一層強化して、地域の学校づくりを積極的に推進する。 (1) 地域コーディネーターとの連携の強化 (2) 地域と保護者、保護者相互のつながりを深める取組の充実 (3) 石井地域コミュニティーセ	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1013 1444 1508 1523"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100.0</td> <td>93.6</td> <td>97.4</td> <td>94.9</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 90%超であり、満足できる結果となった。 学校支援ボランティアの積極的な活用、地域協議会との連携等により、地域の教育力を活かした特色ある教育活動が推進されたことが評価されたと考える。 【次年度の方針】 学校支援ボランティア調整会議を更に機能させるために、地域連携教員を核とする連携協力体制を再構築するとともに、今年度実施できなかった地域コーディネーターの常駐日の設定を実現し、学校支援ボランティア活用の一層の推進を図るようにする。また、地域協議会との連携を更に強化し、特色ある事業を新たに展開することで、心を育む教育活動	教職員	保護者	地域住民	児童	100.0	93.6	97.4	94.9
教職員	保護者	地域住民	児童							
100.0	93.6	97.4	94.9							

		ンター等，地域施設・団体と連携した取組の工夫		の推進を図るようにする。								
	A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、荷物や備品が整理整頓されるなど、学習しやすい環境である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 学校配当予算の効果的な執行及びPTAとの連携により、教材備品等の整備を推進する。 2 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 (1) 日常点検，定期点検等の安全点検の充実 3 児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ，環境の美化に努める。 (1) 縦割り班清掃活動の充実 ① 清掃強化週間の設定 ② 清掃ボランティアの活用	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.9</td> <td>91.0</td> <td>100.0</td> <td>89.9</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が90%超と、前年度と同様に、高い評価を得ることができた。 「児童と教師の協働」という視点を一層強化し、清掃活動をより充実させるようにする。また、安全点検や掲示計画についても工夫・改善を図るようにする。 【次年度の方針】 縦割り班清掃については、児童の勤労意欲を更に高めるため、発達段階に応じた指導を一層充実させるようにする。また、トイレ清掃など特殊な清掃場所については、清掃手順を分かりやすく伝えられるよう指導法を工夫するとともに、清掃ボランティアの参加機会を増やすようにする。 安全点検結果の修繕補修については、迅速な対応を心掛け、学校業務嘱託員及び学校機動班と連携して適切に修繕補修を行う。また、学校配当予算をうまく活用しながら修繕計画を立案し、安心して安全な学校づくりを推進する。	教職員	保護者	地域住民	児童	88.9	91.0	100.0	89.9
教職員	保護者	地域住民	児童									
88.9	91.0	100.0	89.9									
	B 1 教職員は、児童・保護者との信頼関係を築き、居がいのある学校づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、保護者と連絡を密にしながら指導に当たっている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 家庭と連携して、一人一人のよさを認め励ます教育を充実させることで、自尊感情を育むことに努める。 (1) 褒めて伸ばす教育の推進 (2) 児童相互に認め合う場の設定 2 校内組織を活用して、問題行動の早期発見，早期対応に努めるとともに，家庭や関係機関と連携した指導の充実を図る。 (1) 学年会での積極的な情報交換による情報の共有化 (2) 児童指導委員会，いじめ防止対策委員会を活用した組織的な取組の推進	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.2</td> <td>84.5</td> <td>100.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が80%を超え、数値目標を達成することができた。しかし、昨年度より若干は縮まったが、依然として保護者と教職員との数値に開きがあることから、学校の取組がまだ十分理解されていないのではないかと考えられる。 【次年度の方針】 これまでの取組を地道に継続するとともに、情報提供の在り方を工夫することで保護者の肯定的回答を更に高められるように努力したい。授業参観後の学級懇談会のもち方を工夫したり、学年便りの記事を充実させたりして、情報提供を活性化させるようにしたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.2	84.5	100.0	
教職員	保護者	地域住民	児童									
97.2	84.5	100.0										
教育活動の状況	A 10 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	1 家庭や地域と連携し，あいさつ運動の積極的な推進を図る。 (1) 年5回の地域学校園あいさつ運動の取組の充実 (2) 校内あいさつ運動（4，9，1月）の積極的な展開 (3) 教師の率先垂範による日常的なあいさつ指導の推進	B	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>94.4</td> <td>68.2</td> <td>93.0</td> <td>90.2</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%超となり、目標を達成することができた。しかし、保護者との数値に大きな開きがあることから、学校での取組が家庭生活を含めた校外生活で十分に生かされていないのではないかと考えられる。ただ、昨年度に比べて数値的にはわずかであるが向上しており、粘り強く取	教職員	保護者	地域住民	児童	94.4	68.2	93.0	90.2
教職員	保護者	地域住民	児童									
94.4	68.2	93.0	90.2									

			組を進めるとともに、家庭への啓発も推進する。 【次年度の方針】 年間3回の校内あいさつ運動やあいさつ推進キャンペーン等の取組を充実させるとともに、日常的なあいさつ指導や校外におけるあいさつに関する指導の一層の充実を図ることで、あいさつの習慣化を積極的に推進するようにしたい。								
	A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 言語活動を充実させ、児童一人一人のコミュニケーション能力を高める指導を積極的に行う。 (1) 国語科学習指導の充実 (2) 会話科「ことばの時間」の指導法の工夫 2 思いやりの心を育み、相手の気持ちを考えた気持ちの良い言葉遣いができる児童の育成を推進する。 (1) 日常の道德教育の充実 (2) 人権教育の推進と人権週間の取組の充実 (3) 教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>88.9</td> <td>73.9</td> <td>93.2</td> <td>83.7</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が80%超となり、目標を達成することができた。しかし、A10の項目同様、保護者と児童及び教職員、地域住民との数値に依然として大きな開きがあり課題が残った。昨年度に比べて数値的に大きな変化が見られなかったことから、取組を見直す必要があると考えられる。 【次年度の方針】 言葉遣いの指導に対する教職員の意識を再度統一し、ぶれのない指導に全校体制で取り組むようにしたい。特に、生活の中心である学習指導場面における指導を充実させ、時と場に応じた正しい言葉遣いを低学年からしっかり身に付けさせるようにしたい。更に、プロジェクトチームを編成し、重点課題に基づいたきめ細かな指導の充実を図るようにしていきたい。	教職員	保護者	地域住民	児童	88.9	73.9	93.2	83.7
教職員	保護者	地域住民	児童								
88.9	73.9	93.2	83.7								
健康・体力	A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 日常的な体育活動の充実を図り、進んで健康や体力の保持・増進に努める児童の育成を図る。 (1) 元気っ子体力チェックによる実態の把握と改善策の検討 (2) 補強運動の計画的実践 (3) 各種検定表を活用した主体的な体力づくりの推進 2 競い合い、高め合う体育的活動を積極的に取り入れ、自主的に体力づくりに励む児童を育成する。 (1) うつのみや元気っ子チャレンジへの積極的な参加	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.2</td> <td>66.7</td> <td>91.2</td> <td>92.3</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%超で昨年度より増加しており、満足できる結果となった。ただ、保護者の肯定的回答が大きく減少し、児童及び教職員、地域住民との数値が大きく開いてしまった。質問が変わり休日の過ごし方が問われたことが原因ではあるが、家庭生活における運動離れが心配される結果となった。 【次年度の方針】 体育的活動を更に充実させ、進んで健康や体力の保持・増進に努める児童の育成を推進していくとともに、家庭生活における運動機会の確保に向け、ホームページや各種便り等を活用して、体力づくりに関する情報提供を積極的に行い、保護者の啓発に取り組むようにする。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.2	66.7	91.2	92.3
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.2	66.7	91.2	92.3								
	A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 望ましい食習慣の形成を図るために、意図的・計画的な食育の推進を図る。 (1) 給食時の校内放送を活用した食育活動の展開 (2) 学校栄養士と連携した「食に関する指導」の充実 (3) 学校保健給食委員会を活用した組織的な取組の推進	【達成状況】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.7</td> <td>72.0</td> <td>93.8</td> <td>79.2</td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が80%未満となり、目標を達成できなかった。保護者の肯定的回答も依然として低く、家庭との連携を図りながら、より食に関する指導を充実させる必要性を感じさせる結果となった。 【次年度の方針】	教職員	保護者	地域住民	児童	91.7	72.0	93.8	79.2
教職員	保護者	地域住民	児童								
91.7	72.0	93.8	79.2								

		2 食に関する情報発信を積極的に に行い、家庭と連携した食に関する 取組を充実させる。 (1) 食育便りを通じた食育に関 する啓発の推進 (2) 年3回のお弁当の日の取組 の充実	今年度の取組を継続することで、意図的・ 計画的な食育の推進を更に進めるよう努力す る。特に、食育だよりによる家庭への啓発を 努力目標とするとともに、年間3回のお弁当 の日の取組を充実させ、家庭との連携を図つ た取組を通して、児童の食に対する関心を高 めるようにする。また、地域学校園として取 り組んできたコラボ給食等も積極的に活用し ていくようにしたい。								
学 習	A14 児童は、進んで学習 に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に進んで話 し合うなど、積極的に学習し ている」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 基本的な学習態度の徹底を図 り、学び方を身に付けた児童を育 成する。 (1) 授業開始時刻前着席の徹底 (2) 学習用具等の業間時準備の 徹底 (3) 朝の学習の工夫 2 「石井っ子の学習」に基づいた 家庭と連携した指導を推進し、主 体的な学習態度や学習習慣の育 成を図る。 (1) 宿題の適切な分量・内容等 の検討 (2) 個の実態に応じた自主学習 の習慣形成 (3) 認め励ます指導を中心とし た個に応じた支援の充実	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>100.0</td> <td>87.0</td> <td>100.0</td> <td>93.2</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が90%超で 昨年度よりポイント増となり、目標を十分に 達成することができた。 ただ、保護者の肯定的回答が他と比べて低 く、学校の取組がまだ十分理解されていない のではないかと考えられる。 【次年度の方針】 基本的な学習態度についてはかなり定着し てきているが、まだまだ十分とはいえない状 況が学校評価の結果で明らかになった。年度 当初からの一貫した指導が重要であるという 認識の下、学習指導部が提案した基本的な学 習態度に関する指導事項を、学年の発達段階 に応じて繰り返し指導するようにする。 また、好ましい学習習慣の確立には家庭と の連携が不可欠であり、「石井っ子の学習」に よる共通理解を一層推進し、主体的に学ぶこ とのできる児童の育成を図りたい。	教職員	保護者	地域住民	児 童	100.0	87.0	100.0	93.2
	教職員	保護者	地域住民	児 童							
	100.0	87.0	100.0	93.2							
A15 児童は、落ち着いて 学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中に先生や友 達の話をよく聞くなど、落ち 着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答80%以上	1 「発表の仕方」「話の聞き方」 に関する基本的な学習態度や学 習技能の習得を図るために、指導 法を工夫・改善する。 (1) 発達段階に応じた「発表の 仕方」「話の聞き方」のポイン トの掲示 (2) 小集団学習の効果的な活用 2 視覚情報を制限し、落ち着いて 学習できる教室環境づくりを進 める。 (1) 前面黒板周りの整理 (2) 計画的な作品掲示	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>97.2</td> <td>88.8</td> <td>100.0</td> <td>87.4</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が85%以上 となり、目標値を上回った。しかし、依然と して児童と教職員との数値に大きな開きがあ り、課題が残った。 今後は、全校統一して進めてきた望ましい 学習態度に関する指導をさらに徹底し、個の 実態に応じた指導法を工夫・改善して、基本 的な学習技能の習得を図りたい。 【次年度の方針】 今年度作成した「発表の仕方」「話の聞き方」 に関する基本的な学習態度や学習技能に関す る掲示物を、年度当初から積極的に活用し、 学習規律をしっかりと身に付けた「学ぶ集団 づくり」を強化する。また、社会科の研究で 得られた知見を他の教科等の学習場面でも大 いに活用し、ペア学習や小集団学習を積極的 に取り入れた「学び合い、高め合う学習指導」 の一層の充実を図るようにする。	教職員	保護者	地域住民	児 童	97.2	88.8	100.0	87.4	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
97.2	88.8	100.0	87.4								
B2 児童は、進んで本を 読もうとする意欲をも ち、読書が習慣化され ている。 【数値指標】 全体アンケート	1 読書指導を充実させ、自ら進ん で様々な本に接しようとする児 童を育成する。 (1) 朝の読書活動の充実による 読書習慣の形成 (2) 学校図書館等、読書環境の	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児 童</th> </tr> <tr> <td>97.2</td> <td>89.8</td> <td>97.2</td> <td>85.7</td> </tr> </table> 数値指標は、児童の肯定的回答が85%以上 となり、目標値を上回った。しかし、昨年度 以上に児童と教職員との数値に大きな開きが	教職員	保護者	地域住民	児 童	97.2	89.8	97.2	85.7	
教職員	保護者	地域住民	児 童								
97.2	89.8	97.2	85.7								

	「児童は、進んで本を読み、読書に親しんでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	整備による意欲付け (3) 読み聞かせボランティアとの連携による意欲付け (4) 図書館だよりやBOOK新聞をとおした啓発活動の推進	あり、読書に関する意識に大きな隔たりがあると考えられる。今後は、読書に関する実態調査等を別途行い、児童の実態を再調査するとともに、実態に即した指導を計画していく必要があると考える。 【次年度の方針】 学校図書館の活用については年間指導計画を見直し、年間を通じて意図的・計画的な指導ができるようにする。また、朝の活動を教育課程に明確に位置付け、年間を通して適切な読書の時間を確保できるようにする。 家庭への読書の啓発については、図書館だよりの内容を工夫することで、より活性化できるようにしたい。								
本校の特色・課題等	B3 学校は、地域協議会と連携し、親子のふれ合いや地域の方々との交流に努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、地域協議会と連携し、親子のふれあいや地域の方々との交流に努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	1 保護者や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、家庭・地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 (1) 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 (2) ボランティア調整会議による学校支援ボランティアの計画的な活用 (3) PTA、地域各団体共催による「秋祭り」による交流の推進	【達成状況】 <table border="1" data-bbox="1011 725 1506 808"> <thead> <tr> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域住民</th> <th>児童</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.2</td> <td>90.2</td> <td>97.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 数値指標は、保護者の肯定的回答が 90%超となり、満足できる結果となった。 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や PTA、地域各団体共催による「秋祭り」による交流の推進等が評価につながったと考えられる。 【次年度の方針】 年間 2 回のボランティア調整会議による学校・地域、双方のニーズの把握をしっかりと行い、学校支援ボランティアのより計画的な活用を目指すとともに、地域協議会主催の行事等を活用し、校外活動への児童・保護者の参加を促すようにする。 また、家庭・地域と共に歩む魅力ある学校づくりを更に推進するために、PTA や地域協議会との連携を一層強化するとともに、自治会や育成会等、地域各団体との連携についても一層努力する。	教職員	保護者	地域住民	児童	97.2	90.2	97.6	
教職員	保護者	地域住民	児童								
97.2	90.2	97.6									

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

【成果】

18 の評価項目中 17 の評価項目で設定した数値指標を上回り、ねらいを概ね達成することができた。中でも、次の 6 項目は全評価対象者から 90%超の肯定的回答が得られ、十分に満足できる結果となった。(A は宇都宮市共通の評価項目、B は本校独自の評価項目)

- ・ A 1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。
- ・ A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。
- ・ A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。
- ・ A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。
- ・ A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。
- ・ B 3 学校は、地域協議会と連携し、親子のふれ合いや地域の方々との交流に努めている。

特に、A 1、A 2 並びに B 3 の肯定的回答の割合が高かったことは、昨年度に引き続き、全教職員の日々の地道な実践の積み重ねが評価されたものであると受け止めたい。ただ、質問項目によっては、わずかであるが肯定的回答が減少していることから、児童・保護者・地域から信頼される学校づくりに向けて、なお一層の努力が必要であると考えられる。

A 7 の評価項目では、保護者及び地域住民から、昨年度同様に高い評価を得ることができた。土曜授業、学校公開等の実施内容や方法を工夫・改善することで、更に「開かれた学校づくり」を推進していきたい。

A 8 や B 3 の評価項目でも、昨年度同様に高い割合で肯定的回答を得ることができた。PTA・地域各団体・地域協議会等との連携が確立し、地域の教育力を活かした特色ある教育活動が展開できたことはすばらしい成果の 1 つであるといえる。次年度も、地域各団体等との連携を強化し、より充実した教育活動が展開できるようにしたい。

【課題】

18の評価項目中、次の1項目は、唯一ねらいを達成することができなかった。

- ・ A13 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。

A13の「食育」については、全体的な肯定的回答の割合が前年度をわずかであるが下回り、数値目標を達成できなかった。ここ数年の取組で確実に成果が上がってきていると考えていただけに、残念な結果となった。食育については家庭との連携が不可欠であり、今後も意図的・計画的な家庭への啓発活動を展開するようしていきたいと考える。

18の評価項目中、次の5項目はねらいを達成することができたが、保護者の肯定的な回答が教職員、地域住民、児童の3者と比べて、著しく低い結果となり、取組の成果に対する認識の差をどう改善すべきか考慮する必要がある。基本的にはこれまでの取組を更に充実させ、児童の好ましい変容を引き出すことに重点を置きたい。また、取組の成果を積極的に情報発信することで、本校の教育実践に対する理解を深めることができるようしていきたい。

- ・ A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。
- ・ A10 児童は、進んであいさつをしている。
- ・ A11 児童は、正しい言葉づかいをしている。
- ・ A12 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。
- ・ A14 児童は、進んで学習に取り組んでいる。

A5については昨年度の反省に基づき、些細なトラブルも見逃さないきめ細かな指導を継続するとともに、適切な情報提供の場を設定することで保護者との連携を密にするよう努力してきた。次年度も、保護者との連携方法については研究すべき課題とし、保護者の信頼を得られるよう一層努力していきたい。

A10、11の2項目は、「あいさつ」と「言葉遣い」に関する評価内容であり、社会生活を営む上で必要な、基本的な生活習慣の習得にかかわるものである。昨年度の反省に基づき、学校独自に行うあいさつ運動や地域学校園で取り組むあいさつ運動の実践は、地域とも連携した全校的な取組で大変充実していた。合わせて学校独自に行った「あいさつ推進キャンペーン」の成果で、児童の意識は昨年度よりかなり向上してきている。しかし、保護者の意識とは依然として開きがあり、学校外でのあいさつに難があることが明確になった。これは「あいさつ」と「言葉遣い」共通の課題ではないかと考える。学校での指導を学校外での生活場面に積極的に生かせるよう支援策を工夫・改善していきたい。

A12については、保護者アンケートの質問文が「平日の授業後や休日などに積極的に運動している」と変更されたことが影響し、大きく肯定的回答の割合が減少したと考えられる。しかし、学校外での児童の運動に関する意識が低いという課題が新たに浮き彫りにされたと考え、運動習慣の確立に向けて、家庭への働きかけを行っていきたい。

A14については、保護者の肯定的回答が前年度比で-5ポイントとなった。児童の肯定的回答が増加していることを踏まえると、取組自体に問題はなかったと考え、家庭への情報提供の在り方について研究していきたい。

6 学校関係者評価

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。